

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	染まりゆく醗酵の里 下総神崎を歩く		
実施日時	平成29年11月22日(水) 9時30~14時		
実施場所	香取郡神崎町		
受講者	23名	FIC会員他スタッフ	13名

活動の内容

心配した天気であったが、夕方以降の崩れということで青空も覗くまざるの天気であった。

受講者が少ないこともあって1班4~5名という少数密着型体制となる。下総神崎駅を出発し神崎神社の別当寺として建てられた神宮寺へ。ここに植わっているナギは、「並木の大榎」と



呼ばれかなりの古木である。仁王門から観音堂を通り西の城へ。西の城貝塚は、汽水域に棲息するヤマトシジミを主体とする貝塚であり、発見された縦穴式住居跡からも縄文時代早期のものであることがわかっている。

さらに、中の城古墳、天満宮へと道をとる。この道筋の林縁では、コモチシダ、紫色の豆がはじけたノササゲ、鋸歯の鋭いウラジロガシ、ヒヨドリジョウゴ、八の字の実と虫こぶのついたテイカカズラ、リンドウなど色とりどりの植物を観察することができた。



東の城を抜けて神崎ふれあいプラザでトイレ休憩。プラザ裏に植わっているオハツキイチョウの木にはギンナンが残っていたが、葉付きのギンナンは発見できず。

国道を渡って神崎神社へと向かう。7000坪あまりの境内が、県の天然記念物に指定されている「神崎の森」である。タブノキ、スダジイ、ムクなどの古木が生い茂っており、江戸時代には、利根川を航行する船の目印となった。本殿脇には、ナンジャモンジャの木として有名な、国の天然記念物として指定されている大クスノキが鎮座している。

昼食休憩後、醗酵食品の一つである醤油の醸造所を見学。すべての行程を行っているわけ



ではないが、醤油造りのイロハを学ぶことができた。

生搾り醤油の試食、醤油の販売後、2時の電車に間に合うべく、ここから約2km弱の道のり

を駅へと向かう。